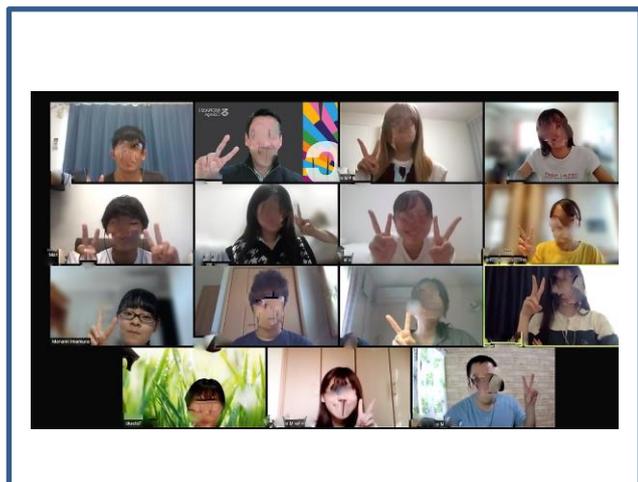


# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 今村 麻菜美  
所属 生命環境科学域 緑地環境科学類  
学年 1 回生

留学先 Monash College  
Global Communication for Future

Leaders

留学期間 (study abroad period)  
2021/8/16~2021/9/3

記入日 2021/9/16

## 留学レポート Study Abroad Report

### ・参加のきっかけ

海外留学に漠然と憧れているけれど、明確な目的があるわけでもないのに日本を出るような勇気はないし、コロナ禍でそもそも海外には行けないなあ、と思っていたところに、オンライン留学という選択肢を見つけました。数あるプログラムの中から Monash 大学主催のものを選んだのは、オーストラリアは留学に向いているというイメージが強かったからです。中学、高校の英語の先生でも、オーストラリアへの留学経験のある方が多かったので、昔から根強い人気のある国だと考えました。

### ・授業

GCFL は、今年は日本と韓国からの学生を中心に受け入れた 3 週間のプログラムで、学生によって受講する期間が異なります。1 週間単位でクラス編成が変わり、その週に参加している学生を出身などがほぼ均等になるように分けられていたのだと思います。なので、最初の週の人、2 週目の人、最終週の人が混在していました。この制度で、夏休みが 8 月で終わる韓国の学生とも交流がとれました。私は集中講義の関係で遅い期間でしか受講できなかったのですが、嬉しかったです。

授業はメルボルン時間の 10:30-12:30、昼休憩 1 時間のあと 13:30-15:30 でした。日本時間では 1 時間早い計算なので昼の 14:30 に終了します。Zoom などを利用する同期型オンライン留学プログラムのデメリットに時差問題がありますが、オーストラリアと日本の時差は小さいので、普段生活する時間に授業があったことは大きなメリットでした。興味のある国、大学のプログラムに参加することが一番大切ですが、同期型の場合は日本時間のいつに授業があるのか考慮する方がよいです。

Intermediate と Advanced クラスがあり、私は Intermediate での参加でした。Advanced が上級とは言っても、参加学生 (特に韓国の学生) の英語レベルは高く、最初の週のうちは、前の週から参加していた学生の積極性や語学力に圧倒されていました。10~15 名程度の少人数のクラス編成でしたが、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使って数人で話し合う機会が多く設けられ、一人一人が英語で話す時間が増えるように工夫されていました。クラスは日本人学生のほうが多かったため、ブレイクアウトルームが全員日本の学生になることもありましたが、In Japanese, OO のようなこと以外では日本語はほぼ使わずに英語で会話していました。ルームで困ったことがあっても先生を呼ぶため、詰まって何も進まないということはほとんどありませんでした。月~水と木~金で先生が替わるのですが、先生によっては TA さんのような立ち位置で大学院生が参加してくださり、ルームでも司会進行を担ってくださいました。TA さんは中国の方が多く、ルーム内で時間が余ったら日中韓での文化の違い (主に漫画やアニメ) について話しました。

値切りやビジネスシーン、オンライン会議ならではのハプニングで使えるフレーズなど日常会話を中心に授業で扱いました。重要な単語は Quizlet を使ったり、オーストラリアの簡単なマナーについて Kahoot! でクイズを通して学んでから、ペアに分かれてロールプレイングをしました。特に印象的だったのは、世界各国のビジネスマナーを調べて、それぞれの国のビジネスマンになった設定でロールプレイをしたことです。私がガーナのチョコレート会社の社員、相手がヨーロッパの商社の設定でしたが、ガーナでは握手は右手だとか、バカンスで 7 月は相手が対応できないとか、台本をつくる過程も演じるのも楽しかったです。他のペアのものを見ていても、お茶をしながらゆっくりじっくり仲を深めてから交渉に移りたい国の人と、要件を早く終わらせたい人の間では、飛行機の時間が迫っているという理由で不成立になってしま

っていたり、各国の文化の違いを垣間見たような気分になりました。

## ・授業時間外

授業時間外にも様々なアクティビティが開催されていました。私は授業の時間やアルバイトとかぶっていて、ほとんど参加できませんでしたが、クラスメイトには、かなり英語力の必要なものに参加してしまってちんぷんかんぷんだった人もいたようです。Monash 大学の日本語を学ぶ学生のクラスにゲストとして参加することもできたそうです。日常会話から時事問題についてディスカッションをするクラスまで、たくさんのレベルが用意されていました。時間が合えば参加したいと思うものばかりで残念でした。

私が唯一参加できたセミナーは、在メルボルン日本総領事館の方の講演会でした。元々は国連で働くことを目指していた方だそうで、そのためのルートについて、メルボルンの現状などのお話があり、語りから外交官としての使命感の強さを感じました。現在国際交流が絶たれていて、今海外で活躍している人のお話を聞く機会はそうそうないし、自分から動いて連絡をとることも勇気と労力があるのでこのような時でしか聞けないことを知れて、充実した時間でした。この講演で、より海外で働くことに興味が湧き、漠然と留学したいと思っていた気持ちも具体的になった気がします。

プログラム最終日には、参加した全学生と先生が合同で、オンラインパーティーのようなものを行いました。ここではプログラム中のクラスに関係なく学生たちで交流ができたので、クラスメイトたちとはほぼ日本語でしゃべっていました（笑）。先生が来たときや韓国の学生と話すときだけ英語で、やはり英語を学ぶことは他国の人とコミュニケーションをとるのに必要なことだと再確認しました。クラスメイトたちとお互いの Instagram を交換したり、いつかコロナが収まったら実際に会いたいねと話したり、日本語で話す意外にも関西弁の学生が多かったり（このプログラムは全国から参加しています）、授業の緊張感と英語の不自由さから解放された思い思いの時間を過ごしました。ホームステイのように実際に会う留学では帰国してからも手紙の交流がある、というのはよく聞きますが、オンラインでも韓国の学生も日本の学生も繋がることのできたのは嬉しかったです。ただ、私は韓国語が読めないの、韓国の学生の投稿が全くわからないことが唯一の難点です（笑）。

## ・修了後

オンラインだったので、授業時間外は日本語の環境に戻ることが利点であり難点です。完全に英語ばかりの場所に身を置きたいのであれば、実際に渡航して現地でたくさんの人と話すほかないと思います。ただ、それがプレッシャーになってしまう人にはよい機会です。英語力が急上昇したかと聞かれるとそうではない、という答えになってしまいますが、これからの外国語学習に対する考え方やモチベーションは遙かに上がりました。言いたいことがとっさに出てこないことのもどかしさは、机に向かって教科書を読むだけでは絶対に体験できない感情で、その分通じた時の喜びもひとしおです。高校生の時はつい授業で出てこない英語があっても日本語で会話してしまっていたのですが、ここではみんな英語だから日本語を使わないようにしましょう、というのはかなり意識の高い集団でないとできないことなので、英語の授業なのについていって日本語でしゃべってしまうという人にはぜひ体験してほしいです。